

## 「子供目線」で魅力アップ作戦 ～宮崎県延岡市の観光地づくり提案～

### 1. 現状・問題点

宮崎県延岡市は平成18年2月に北方町及び北浦町と合併、平成19年3月に北川町と合併し、新延岡市が誕生した。旧延岡市の区域は化学系を中心とした工業都市であり、観光資源に恵まれているとは言えない状況であった。しかし、3つの町と合併したことで、北方町の「山」、北浦町の「海」、そして北川町の「川」という自然に恵まれることとなり、同時に観光資源も一気に充実することとなった。

こういった背景を踏まえ、延岡市や延岡観光協会なども延岡の観光に力を入れ、観光客誘致に取り組んでいる。平成21年3月には「延岡市観光振興ビジョン」を策定。このビジョンの中では、合併した延岡市のような様々な資源を活用し観光を産業につなげるための施策が盛り込まれており、特に地域住民との協働を掲げ、地域住民が地域を自慢できる地域づくりに取り組んでいくことが大切であると述べられている。

今後、ますます延岡市の観光を盛り上げていくためには、現状に満足せず、観光地や観光資源（以下、「観光地等」という。）の魅力を磨き、悪い部分は改善していくことが必要である。そのために観光振興ビジョンに掲げる地域住民との協働をさらに進め観光地等の魅力アップにつなげるアイデアを提案したい。

### 2. アイディア内容・方法

地域住民との協働による観光地等の魅力アップで注目したいのは「子供」、特に小学校の児童である。彼らの感性は大人に比べてとても敏感であり、思ったことや感じたことを時には大人よりもハッキリと口にしてくれる。この子供の特性を活かし、児童たちに延岡市内の観光地等を散策してもらい、「子供目線」で観光地等を見てもらうことを通して、魅力アップにつなげていくものである。

方法としては、以下のフローで行う。

#### ①児童たちによる観光地等の散策

年に3回程度、延岡市内の小学校で児童たちに「観光地を巡り、いいところ・悪いところを探す」宿題を出す。（小学校の多くは3学期制なので、1学期毎に北方町、北川町、北浦町を宿題とするのがちょうどいいと思われる。）児童たちには休日に観光地等を散策してもらい、散策して感じた観光地等の「いいところ・悪いところ」を考えてきてもらう。

#### ②児童たちによるグループワーク

児童たちが考えてきた観光地の「いいところ・悪いところ」を学校に持ち寄り、生活科や総合学習の時間を利用してグループワークを行う。このグループワークで考えてきたことの共有化を図り、悪いところがあれば、「どうすれば、またその観光地に行

きたくなるか」という改善のアイデアを児童たちみんなで考えてもらう。

また、参観日にこのグループワークを行えば、保護者も一緒にアイデアを考えることもできる。

#### ③観光協会へレポートの提出

②のグループワークでまとめたことをレポートとしてまとめ、観光協会（又は延岡市の観光部署）に提出する。若しくは、児童たちによる発表の場を設け、観光協会の職員に直接アイデアを聞いてもらう。

#### ④観光地等の魅力アップにつなげる

最終的には児童たちの考えた「いいところ・悪いところ」や改善のアイデアを観光地等の運営主体に伝え、より魅力ある観光地を目指して魅力アップや改善につなげていってもらう。

### 3. 得られる効果

#### ①観光地等の魅力アップ

小学生の敏感な感性により得られたアイデアを観光地等の運営に活かすことで、観光地等を見直す機会となり、いいところはさらに良く、悪い部分は改善していくことができる。

#### ②小学生の地元への愛着心アップ

観光地を始め自分のマチを好きになるには、まずは自分のマチを知ることから始まる。観光地等を散策する機会を設けることにより、小学生が自分のマチに愛着が湧き、将来のマチづくりの主体となってくれる可能性が高くなる。

#### ③親も巻き込める

今回のアイデアにおいて小学生に焦点を当てた理由は、「小学生の宿題は親も一緒に考える」からである。自分の子供の宿題を手伝う親の風景は全国どこでも見られるものである。小学生を対象とすることで、その親も一緒に観光地等に出向き、一緒になって観光地等やマチのことについて考える機会となる。このことから、大人も子供も一体となった、延岡市が目指す地域住民との協働による地域づくりに一歩近づくこととなる。